



大阪科学・大学記者クラブ 御中

2018年12月18日
大阪市立大学

— 3人の異分野研究者によるガチンコ討論 — 「サイエンス異種格闘技戦」を開催します

大阪市立大学理学部は、2019年1月17日（木）に杉本キャンパス 学術情報総合センター10階 大会議室において、サイエンス異種格闘技戦を開催します。サイエンス異種格闘技戦とは、誰もが不思議に思う自然科学の大問題について、本学理学研究科の教員が専門分野の垣根を超えて徹底的に議論する討論会です。

ルール無用の討論会を通して、「科学のプロフェッショナルが、どのように科学を楽しむのか」ということを一般の皆様や学生・教職員に伝える、大変ユニークな取り組みです。ぜひともご取材ください。

【徹底討論テーマ】

- ・南海トラフ、上町断層はいつ動くか？
- ・生物の定義は何か？生きていることの定義は何か？
- ・物理は、生物の解明に貢献できるか？

【名 称】サイエンス異種格闘技戦 —3人の異分野研究者によるガチンコ討論—

【開催日時】2019年1月17日（木） 16時30分～18時00分

【開催場所】大阪市立大学杉本キャンパス 学術情報総合センター10階 大会議室

【対 象】どなたでも（事前申し込み不要）

※次頁に登壇者3人の意気込みを記載しています。

【登壇者による意気込み① 坪田 誠（理学研究科長・教授）専門：物理学】

物理学はこの宇宙の根本原理を記述する学問です。物理学者は、多かれ少なかれ、物理帝国主義者で、物理は全ての自然現象を説明できる強力な学問であると考えています。そしてその対象は、生物・生命現象や地震・気象などの地学も例外ではありません。物理がそれらの学問にどのように切り込むかをお見せします！



【登壇者による意気込み② 宮田 真人（理学研究科 教授）専門：生物学】



生きているものとそうでないものの境界を理解することは、人類の長年の夢でした。ゲノムをはじめとする生物に関する膨大な情報を手にした今、私たちはこの命題に真剣に取り組むことができます。

【登壇者による意気込み③ 三田村 宗樹（理学研究科 教授）専門：地学】

あまりあてにならない地震発生確率。地震予知ができたとしても地震発生は止められません。地震によってどのような場所が大きく揺れ大きな被害につながるかを都市の地盤の生い立ちや人為改変等の結果から、明確にして、多くの人に理解してもらい、災害に備え減災につなげられるかが重要と考えて、研究を進めています。



【お問い合わせ先】

大阪市立大学 広報室
担当：三苫（みとま）
TEL：06-6605-3411、3410